

れたようで危機感を持っている、と福島県漁連会長の野崎哲さんは言う。あらためて漁業を始めるための状況と、事故現場の状況は両天秤であることを認識したという。事故現場で何か起きれば足下がすくわれる。

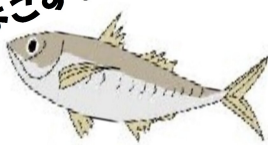
県漁連もできることは協力する姿勢だが、一度、建屋を通った汚染水の海洋投棄は絶対に認めない。漁連が要望してきた、地下水を含む原発敷地内の汚染水の海への流出を防ぐ遮水壁は、やっと二〇一四年度末までに造られる。それにしても遅い。事故直後から「汚染水が海に漏れないように、早

急に遮水壁を造るように」と、専門家なども再三言うてきた。

原発から解け出た燃料がどこにあるかわからないなかで、汚染水は毎日増え続ける。事故原因がわからず、対策もとれないなか、東電まかせにしないで国が責任をもって対応すべきだろう。

(以上)

東電と国は責任をとれ！海をよこすな！



安倍政権の改憲暴走許さないゾ！

五月三日、エルおおさかで「安倍政権の改憲暴走を許さない！五・三憲法のつどい&パレード」が開催された。改憲が現実味を帯びてきて危機感を募らせている人々が続々と結集。その数ホールから溢れる九五〇人となる。

条ネットワーク、女性からの訴え、ピースおおさかの展示問題についての報告など等。

浦部法穂さん「『改憲』でこの国はどうなる？」と題する講演、そして様々な課題で闘っている方々が発言にたった。生活保護の改悪と闘う人、桜宮高校元保護者、宗教者九

講演では★日本は欧米と植民地や市場を分捕りあう戦争をやった。このヤクザの世界との決別宣言が憲法の「平和主義」。誇るべきだ★「押しつけ憲法」と言う者が最大の押しつけ！安保には沈黙。「自主憲法」はウソ。実態は米が求めている改憲に應える為の改憲だーという事が明らかにされた。